

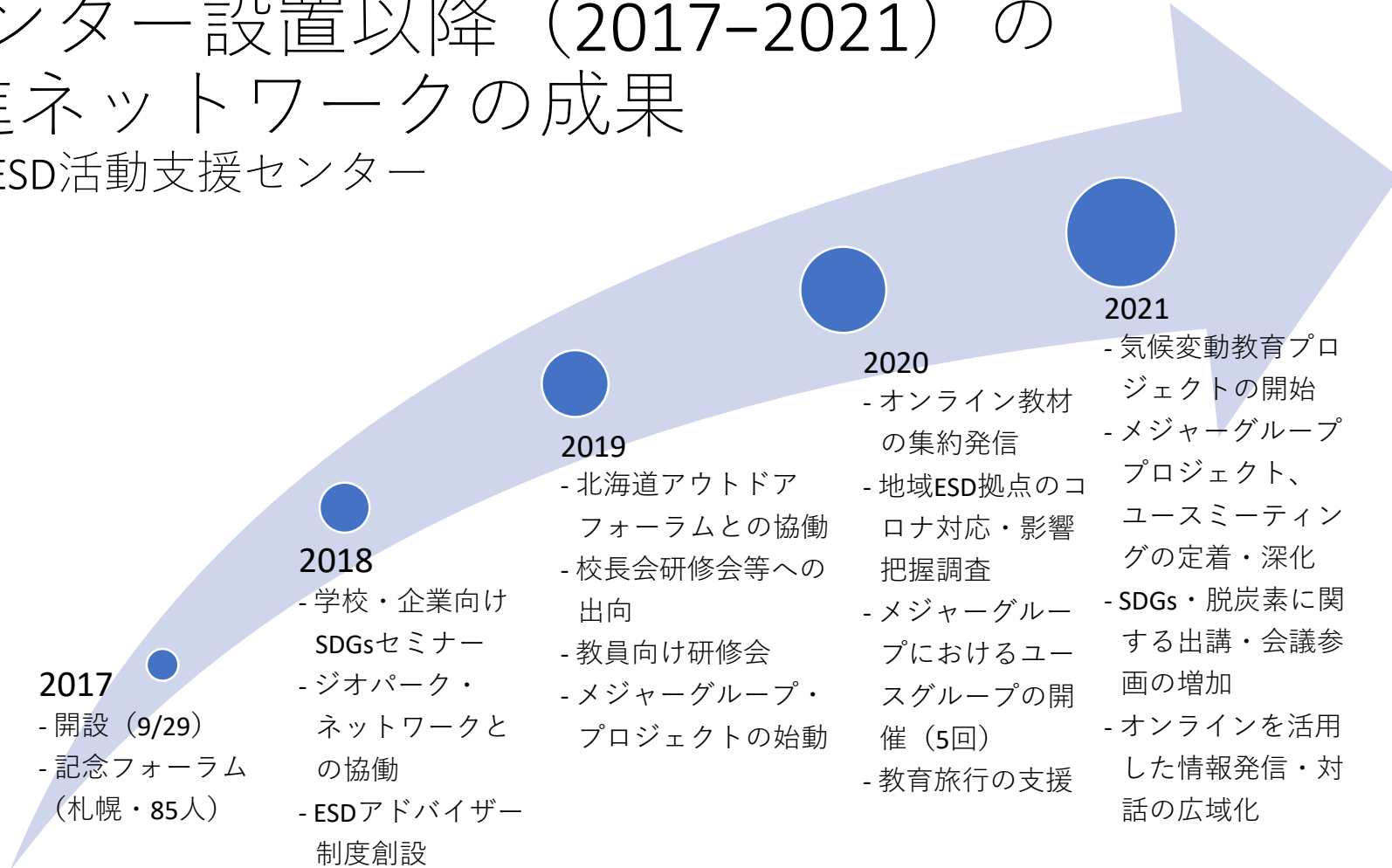
地方ESDネットワークの成果

北海道	・ ・ ・ ・ ・	2
東北	・ ・ ・ ・ ・	4
関東	・ ・ ・ ・ ・	6
中部	・ ・ ・ ・ ・	8
近畿	・ ・ ・ ・ ・	10
中国	・ ・ ・ ・ ・	12
四国	・ ・ ・ ・ ・	14
九州	・ ・ ・ ・ ・	16



地方センター設置以降（2017-2021）のESD推進ネットワークの成果

北海道地方ESD活動支援センター



	2017	2018	2019	2020	2021	累計
相談件数	6 0	6 6	1 4 6	1 4 2	上半期 2 9	集計中
ウェブアクセス数	3 0 5	1 2 4 7	9 6 8	1 3 5 5	集計中	集計中
対話の場づくり数	1 5	1 4	1 1	1 1	上半期 1 3	集計中
主催・共催の対話の場	9	1 1	1 0	9	上半期 1 0	集計中
主催事業参加者数	3 3 9	8 9 8	5 9 2	2 8 3	上半期 4 0 1	集計中

形成されたESDネットワークの特徴

- S D G s をキーワードとする道内の官民や道外とをつなぐ緩やかなハブ機能を形成。
- スタッフがそれぞれ道内主要都市・各圏域のキーパーソンとつながっており、事業協働が定着している。
- 北海道メジャーグループ・プロジェクトをとおしてS D G s 各分野の道内のキーパーソンと顔の見えるつながりができている。
- R C E やオリジナルなユースのネットワーク設立・運営にも寄与している。

ESD拠点との連携

- 国・道関与の宿泊研修施設全8カ所、道内のジオパーク2カ所が拠点登録され、ネットワークとして接合されている。
- そこから大規模なアウトドアフォーラムの企画運営やジオパーク・ネットワークの研修・取組支援等に発展している。
- いくつかの拠点とは、E S D に関する連携のみならず、ローカルS D G s の実装に向けたさまざまな事業連携につながっている。

ネットワークを介した成果

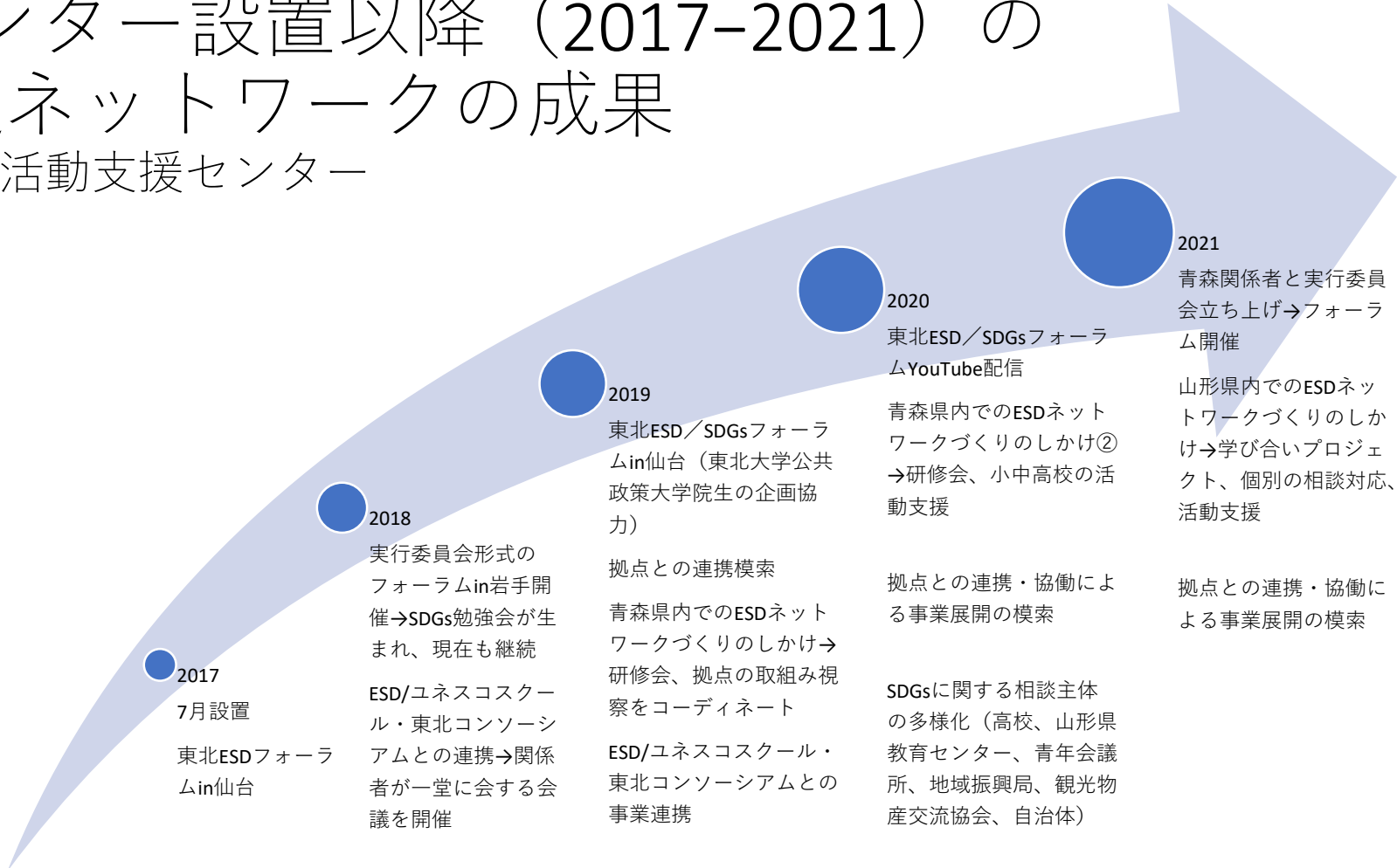
- S D G s に関する公的な情報源・コンサルティング窓口として一定の認知を獲得しており、相談を契機とする出講や外部会議、プロジェクトへの参画が増えてきている。
- 設立以来の重点活動対象である学校や企業セクターからの相談も徐々に増加し、アドバイザー制度の活用や事業者の職員研修等に発展している。
- 気候変動教育プロジェクトなどにより活動が全国区に発展し、専門家からもアクセス・相談がある。

地方センター運営のポイント

- E P O の他業務との事業間連携を重視し、限られたスタッフで最大限効率的に運営してきた。
- 学校教育、中小企業、自治体等それぞれの分野の専門家・キーパーソンとの協働を重ね、関係行政機関とのコミュニケーションにも力を入れている。
- E S D センター業務外で別途、道内の環境学習施設向けの勉強会等の支援も行っている。

地方センター設置以降（2017-2021）の ESD推進ネットワークの成果

東北地方ESD活動支援センター



	2017	2018	2019	2020	2021	累計
相談件数	10	32	53	55	38	188
ウェブアクセス数	1487	5063	5877	5371	？	17798
対話の場づくり数	95 ※	124 ※	56	91	88	454
主催・共催の対話の場	9	12	12	10	18	61
主催事業参加者数	204	214	216	244	300	1178

※ESDセンター事業のみの数値ではなく、EP0との合算

形成されたESDネットワークの特徴

- ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムとの連携による事業展開
- 多様なステークホルダーとのネットワーク形成（環境NPO、大学、学校関係者、企業、ユネスコ協会等）

ESD拠点との連携

- 事業の共催
- 双方の事業への協力関係の構築

ネットワークを介した成果

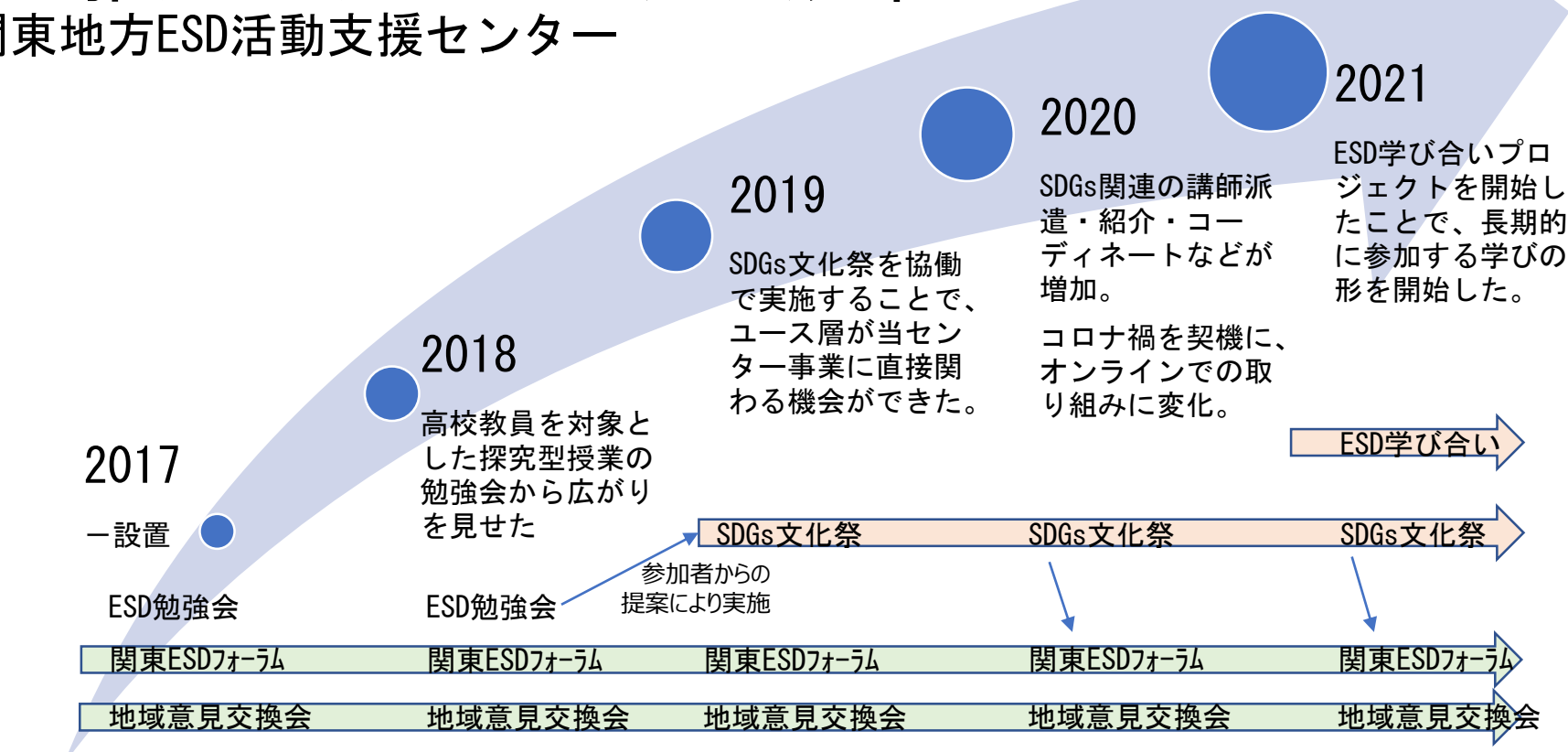
- ネットワークの連鎖が生まれている
- 「ESDが広まらない」と課題を抱えていた岩手県でフォーラムを開催し、実行委員会形式で関係者をつなげたことで、その後も関係者が連携した取組みが継続している。
- 青森県、山形県でも同様の取組みを展開し、新たな活動の発掘、県境を越えた連携の創出ができた。

地方センター運営のポイント

- 企画運営委員に事業へ参画していただく運営スタイルへ見直した
- 広く一般向けの催事を開催するのではなく、関係者向けの学び合いの機会を設けることで活動の底上げを狙う
- 催事開催を契機にネットワークが広がるよう関係者をつなぎ、活動の継続をサポートする。

地方センター設置以降（2017-2021）のESD推進ネットワークの成果

関東地方ESD活動支援センター



	2017	2018	2019	2020	2021	累計
相談件数	27	41	39	56	76	239
ウェブアクセス数	7,610	21,471	26,717	20,295	27,063	103,156
対話の場づくり数	39	67	57	91	51	305
主催・共催の対話の場	8	8	11	15	18	60
主催事業参加者数	324	338	560	662	514	2,398

形成されたESDネットワークの特徴

- ・ 関東は、10都県と広い範囲に加え、域内人口は5千万人以上を抱えることから、数多くの主体がESD・SDGsに取り組んでおり、それらの情報を収集・発信する事に力を入れて実施してきた。
- ・ センター主催の研究会やセミナーなどを通じて知り合った、積極的に活動している主体との協働により、事業を広げてきた。
- ・ これまでに、群馬、山梨、新潟、栃木、埼玉、静岡で、地域意見交換会を実施し、地域ESD拠点をはじめ、各地域でESDに取り組む主体の交流機会を設けた。

ESD拠点との連携

- ・ チャウス自然体験学校：協働してESD事業を運営してきた結果、自然学校ならではの体験型SDGsプログラムを開発した。
- ・ ESD TOKYO：当センターが実施した勉強会で意気投合した2名の高校教諭が一般社団法人を立ち上げ、ユース世代のSDGsの取り組みを推進した。
- ・ 筑波大学附属坂戸高校：ESD学び合いプロジェクトでは、学校の取り組みと連携して、生徒に積極的に関わってESDプログラムづくりを行った。
- ・ 関東ESDフォーラムなどのセンター事業への参画や、地域ニーズを把握する調査など、様々な形で多くのESD拠点との連携を図った。

ネットワークを介した成果

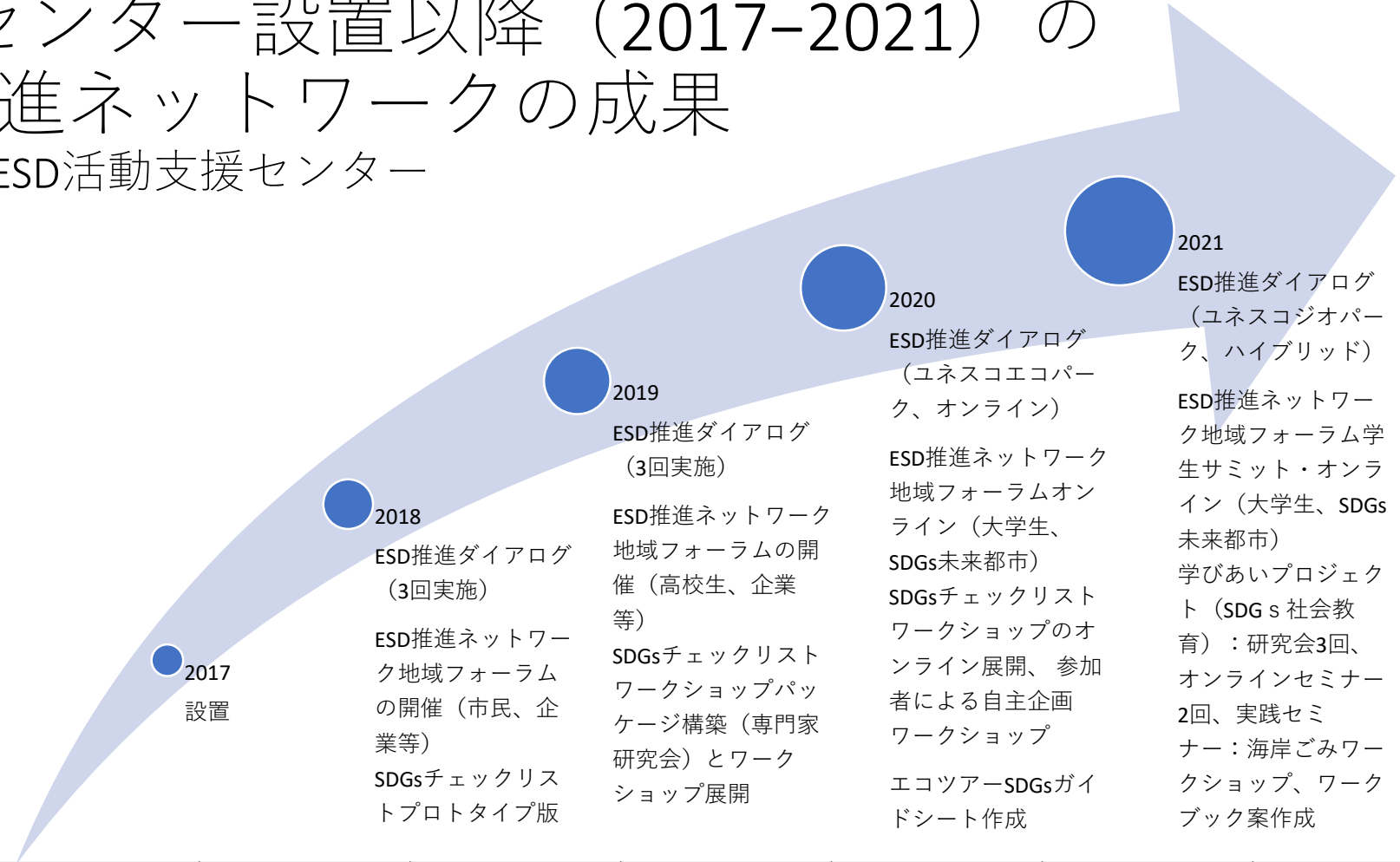
- ・ ESDフォーラム、ESD勉強会に参加した高校教員から、高校生がSDGsについて取り組む「SDGs文化祭」の実施提案があり、協働で開催している。
- ・ 地域ESD拠点と連携しながら、地域での取り組みを進めてきた結果、ESD拠点間の連携など、ネットワークがあったからこそ生まれた取り組みができた。
- ・ 地方の取り組みやニーズ等については地元の団体しか分からないことも多く、地域ESD拠点を介して、より実態を把握した事業実施が可能となった。
- ・ 地域意見交換会に参加した団体が、地域ネットワーク強化に取り組みはじめた。

地方センター運営のポイント

- ・ 情報収集・発信を積極的に行うことで、ネットワークを広げることに繋がり、それがさらに情報と呼び込むことにつながった。
- ・ ESD勉強会やSDGs文化祭運営を通じて、これまであまりリーチできていなかった高校を中心としたユース層への取り組みが増えた。結果として、ユースの参加が必須とされるSDGs関連事業を多世代型で進めることができた。
- ・ 各都県・分野より選出した企画運営委員には、単に意見を頂くだけでなく、企画の際に相談に乗っていただくなど、運営にコミットして頂くことで、事業をより広げることができた。

地方センター設置以降（2017-2021）のESD推進ネットワークの成果

中部地方ESD活動支援センター



	2017	2018	2019	2020	2021	累計
相談件数		419*	280*	83	未集計	—
ウェブアクセス数		311,720*	11,521	13,132	未集計	—
対話の場づくり数		8	28	37	未集計	—
主催・共催の対話の場		8	9	5	未集計	—
主催事業参加者数		544*	264	232	未集計	—

把握できていない（受託団体が異なる）

* 印：EPO・ESD合計

形成されたESDネットワークの特徴

- 2018年度の体制変更により、より戦略的、広範囲にネットワークを拡大。特にRCE中部など学術系ESD拠点、ESDコンソーシアムなどのユネスコスクールネットワーク、PECとやまのような企業系、市民活動NPOともネットワークを形成。小中学校教育現場だけではなく高等教育機関、研究機関、社会人教育などの人材、拠点、現場とのネットワークを構築。

ESD拠点との連携（主なもの）

- 信州ESDコンソーシアム・北陸ESDコンソーシアム
ESDダイアログ（ユネスコエコパーク）
- 中部ESD拠点（RCE中部・中部大学）
SDGsチェックリスト研究会（H30, R01）、学びあいPjct研究会・実践セミナー（R02）
- PECとやま
企業社会人向けSDGsセミナー（H30）、富山県南砺市、黒部市「地域循環共生圏」「同時解決事業」実践セミナー（R01）、学びあいPjct研究会・実践セミナー（R02）

ネットワークを介した成果

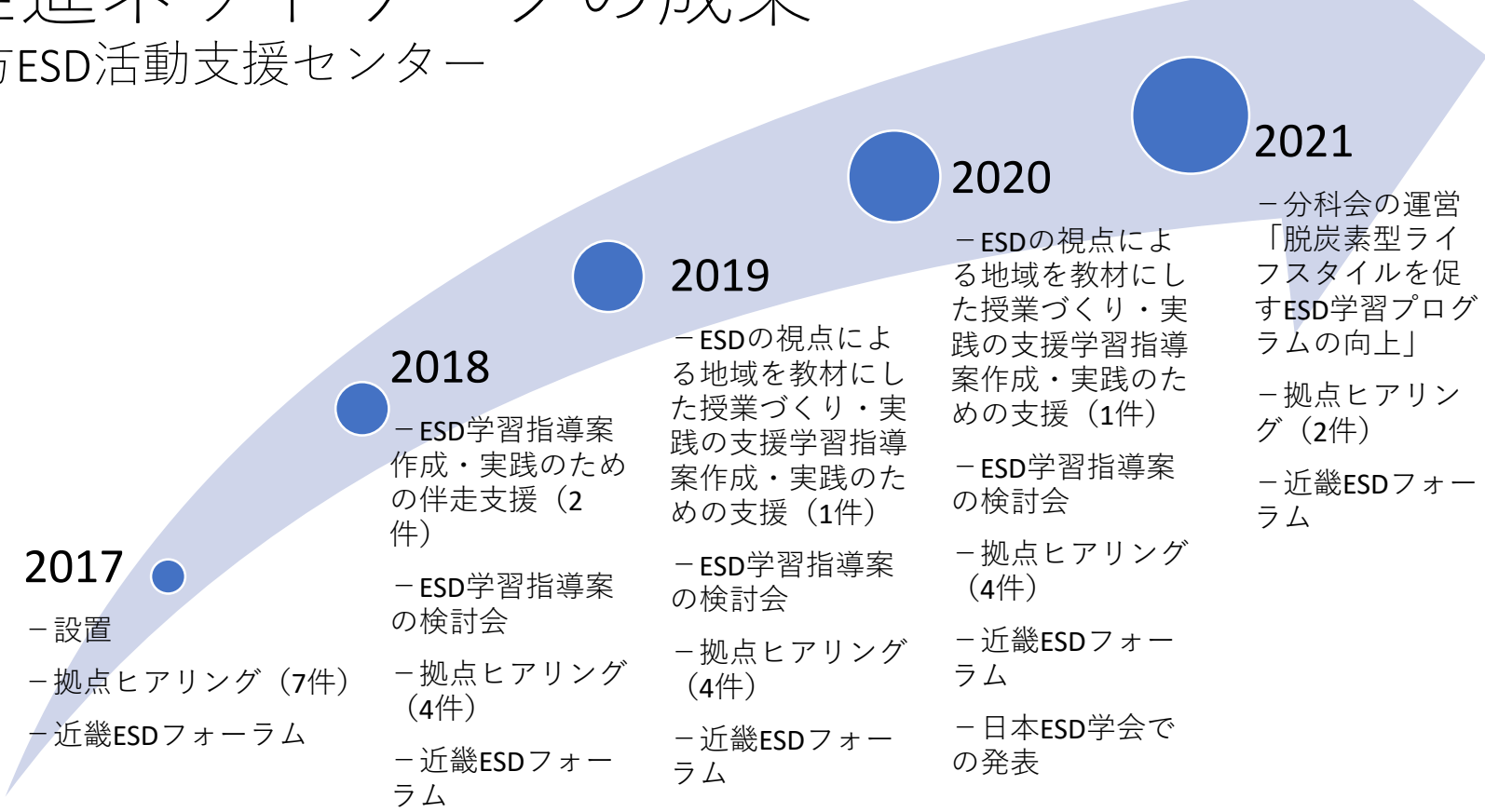
- 学術機関や有識者との連携によるSDGsチェックリストを中核とするワークショッププログラムパッケージを開発。開発経緯を環境教育学会誌に投稿掲載。学校現場や社会人SDGs教育のツールとして展開。
- ユネスコエコパーク、ジオパークにおけるESDのありかたについてのダイアログ開催による自然資産を活用したESDの推進。
- 学び合いプロジェクトにおける社会ESD（SDGs社会教育）在り方研究の進展。

地方センター運営のポイント

- 水平展開可能なESDツールや手法を学術的観点から研究開発。ネットワーク通じて成果を検証、定着を通じて社会実装を目指す。
- 学校教育現場、学生等ユース、NPO/市民、企業人、行政現場などあらゆる対象に対するESD推進を企図。
- オンライン、リアルを組み合わせ、効率的かつ柔軟な現場設営。
- 訴求数をはじめ、アンケートによる効果分析など、適切な評価。

地方センター設置以降（2017-2021）のESD推進ネットワークの成果

近畿地方ESD活動支援センター



	2017	2018	2019	2020	2021	累計
相談件数	20	34	20	19	17	110
ウェブアクセス数	2,493	7,164	8,533	7,443	5,213	30,846
対話の場づくり数	27	32	24	23	55	161
主催・共催の対話の場	11	8	8	9	12	48
主催事業参加者数	154	161	181	173	188	857

形成されたESDネットワークの特徴

- ESDフォーラムやESD授業づくり等を通じて、教員同士や学校・自治体・拠点等の様々な主体が、ESD授業や学びの場づくりについて具体的に相談できる関係性ができている。
- 分科会活動を通じて、拠点が学校・自治体・専門家等の他の主体からの助言・情報提供を得ながらESDプログラム向上に取り組んでいることに加え、拠点同士の相互参照による学び合いができる関係性ができている。
- 拠点の取り組みをESDの視点から取材し、広く紹介することを通じて、近畿内外の拠点やESD実践者に情報発信・普及啓発ができている。

ESD拠点との連携

- 近畿ESDコンソーシアム：教員への授業づくり支援や、分科会における拠点への助言・情報提供が、より高い専門性をもって行うことができた。
- 京都市環境保全活動推進協会：自治体施策との連動や学校の現状を踏まえた新規プログラムを創出できた。それを教材として、参加者のESDに係る学びを深めることができた。
- 花王エコラボミュージアム、箕面森林ふれあい推進センター、淡海環境保全財団、森と水の源流館、大阪カウンセラー協会：ESDフォーラムや分科会活動等で活動紹介いただくことにより、ESD推進の普及啓発を進めた。

ネットワークを介した成果

- ESDフォーラムに参加した教員が、自治体や拠点等と連携してESD授業を創出・実践する意義を認識したことにより、近畿ESDセンターに紹介を依頼する相談が増え、近畿ESDセンターの橋渡しによって連携事例が生まれた。
- 地域ESD拠点への取材・発信を通じて、近畿内外からのESD拠点の活用に係る相談に対して的確な情報提供ができた。
- 分科会活動を通じて、参加した拠点が自身のESDプログラムのブラッシュアップに取り組んだり、拠点同士が訪問し合ったりしており、拠点のESD推進意欲の向上が見られた。

地方センター運営のポイント

- ESDに先導的、あるいは意欲的に取り組む学校教員に対し、自治体、地域ESD拠点、多様な主体等による相互補完的なネットワークづくりを支援し、地域資源を教材にしたESD授業（ESD学習指導案）の事例創出を促す。
- EP0事業で培った自治体環境部局とのネットワークを活かして、環境省重点施策に基づく自治体施策と連動したESD授業（ESD学習指導案）や、拠点のESDプログラムの創出を促す。
- ESDに取り組む人材（教員・自治体・拠点）の裾野を広げるために、創出した事例を活用した普及啓発を行う。

地方センター設置以降（2017-2021）の ESD推進ネットワークの成果

中国地方ESD活動支援センター

- 広島県SDGsビジネスセレクトブック
制作プロジェクト@広島県
- ESD学びあいフォーラム@広島県
～新聞から読みとくSDGs-知る、深める、伝える～

- 広島県SDGsビジネスコミュニティ@広島県
- ひろしまSDGsフォーラム@広島県
- ESD学びあいフォーラム@鳥取県・島根県
～新聞から読みとくSDGs-知る、深める、伝える～
- ESD学びあいプロジェクト@島根県
～津山高校断熱改修プロジェクト～

2020

- ESD勉強会（地域ESD拠点の水平展開フォローアップ）@鳥取県
- 高校生のためのESDユースワークショップ@島根県

- ～夏休みの間にチーム力を高めよう！SDGsを学んでみよう！仲間との交流や学びあいを楽しもう！～
- ESD学びあいフォーラムin山口
～SDGs未来都市の取組と2030年に向けた私たちのアクション！～

2018

- ESD環境学習プログラム研修会@岡山県
～既存の公共施設を見学施設からESDの視点を取り入れた環境学習の拠点施設へ変身させるノウハウを学ぶ！～

- 高校生のためのESDユースワークショップ@広島県

- ～新年度に向けてチーム力を高めよう！SDGsを学んでみよう！仲間との交流や学びあいを楽しもう！～

- ESD学びあいフォーラムin鳥取

- ～5人のキーパーソンと学びあう、デザイン思考から考えるESDと環境教育～

2017

- ESDセンター設置

- ESD推進ネットワーク地域フォーラム2017

- ～SDGsによる地方創生の可能性と私たちの役割～

	2017	2018	2019	2020	2021(～12月)	累計
相談件数	22	71	84	74	100	351
ウェブアクセス数	1,239	3,574	4,403	8,467	5,667	23,350
対話の場づくり数	50	32	21	104	84	291
主催・共催の対話の場	26	3	6	17	47	99
主催事業参加者数	119	91	153	306	689	1,358

形成されたESDネットワークの特徴

- ESDの10年からの継承と発展、先進地以外のESD推進を図ることをねらいとして、学校教育及び社会教育だけでなく、特に「ユース」「SDGs未来都市」「マスコミ」「企業」とのネットワークを拡充することができた。
- 全国的なESD推進団体（JICA、国立青少年教育振興機構）や大学（ESD・SDGsコンソーシアム）との連携や共同事業を実施した。

ネットワークを介した成果

- 環境教育にESDを組み込むというステージから、「SDGs達成のためのプロセス」「地域社会に開かれた学校づくりのための探究学習」「脱炭素社会に向けた実践」の推進力としてのESDを担っている。
- SDGsに取り組む行政・企業・NPO・大学・学校（小中高）等の人材育成（研修講師）や事業支援（コンサルティング、プログラム開発、ツール制作）を担うハブ機能に成長した。

ESD拠点との連携

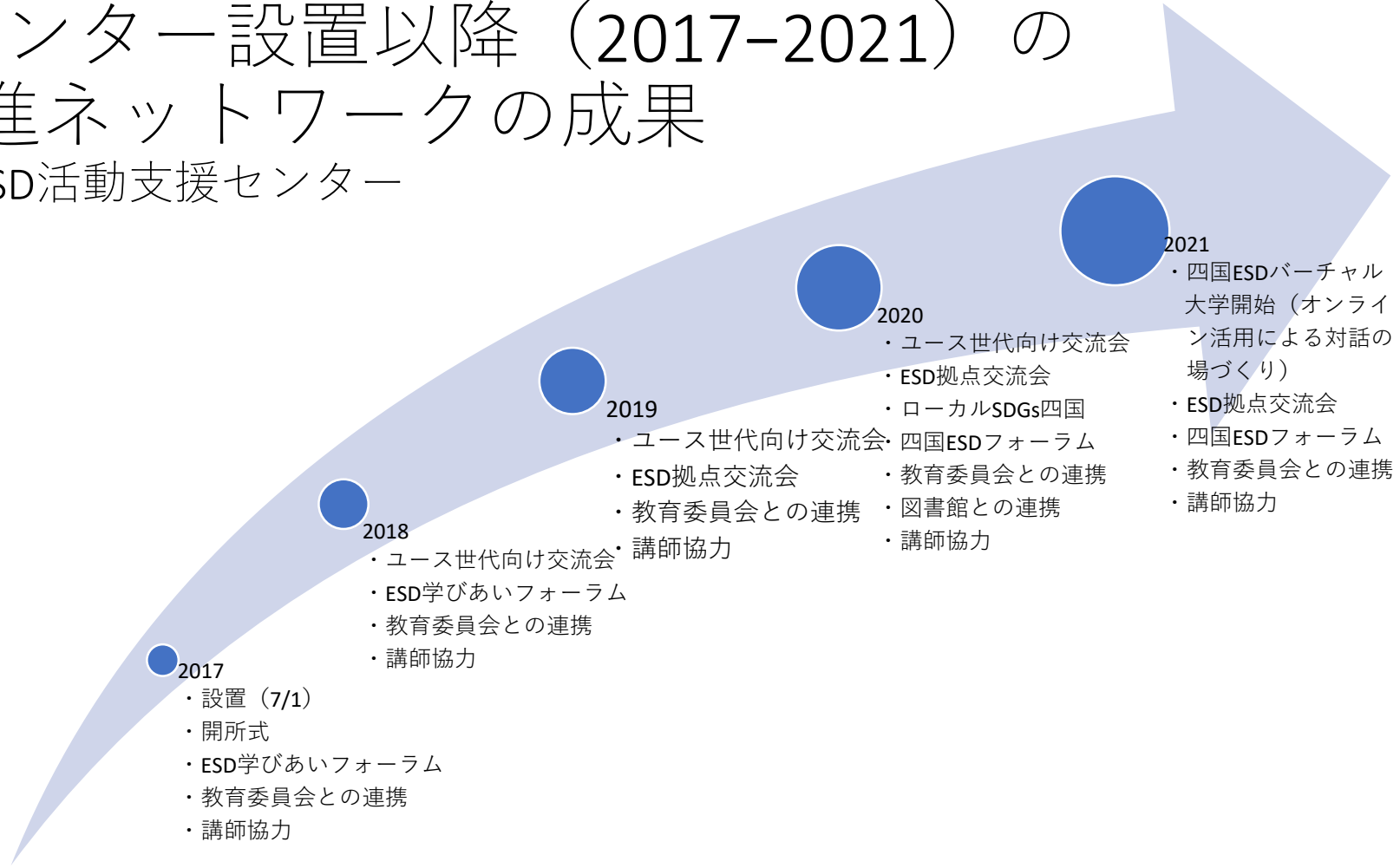
- 中国5県全てに計11団体の地域ESD拠点を創出し、ESDセンター事業における連携協力、地域ESD拠点の取組事例（クリーンセンター環境学習施設）の水平展開、全国フォーラムの参加・登壇、活動支援（情報発信、災害対応、SDGs実践、取材協力）を展開し、ESDを広げる・深める成果が中国地方内外に波及している。

地方センター運営のポイント

- ESDの普及啓発から課題解決（実践と学びあいの同時アクション）へのシフト。
- GAP、ESD国内実施計画、地域ニーズを見据えた企画。
- 運営委員（地域ESD拠点等を担うキーパーソン）による事業への連携協力。
- EPO業務との事業間連携（共催によるマンパワーの相互扶助、情報収集・発信や相談対応の分担）。

地方センター設置以降（2017-2021）の ESD推進ネットワークの成果

四国地方ESD活動支援センター



	2017（7月～）	2018	2019	2020	2021（12月末）	累計
相談件数	299※EP0分含む	476※EP0分含む	26	57	87	945
ウェブアクセス数	1438	3760	5543	4657	4467	19,865
対話の場づくり数	60	57	84	63	91	355
主催・共催の対話の場	2	2	2	4	9	19
主催事業参加者数	95	58	69	212	161	595

形成されたESDネットワークの特徴

- ・四国4県の教育委員会の方に運営委員として参画してもらっており、事業実施に関して助言や協力を得る関係性ができている。
- ・ユース支援事業等を通じて学校現場の教員とのつながりができている。
- ・地域ESD拠点間で顔の見える関係づくりができおり、企業含め連携の素地が構築されつつある。
- ・高校生、大学生などユース世代との直接的なつながりができている。

ESD拠点との連携

- ・ローカルSDGs四国の分科会としても位置付けており、地域ESD拠点との連携による実践的なアイデアが生まれつつある。
- ・ESDバーチャル大学では事例紹介や総括などを通じて地域ESD拠点の取り組みや考えを広く周知することができる。

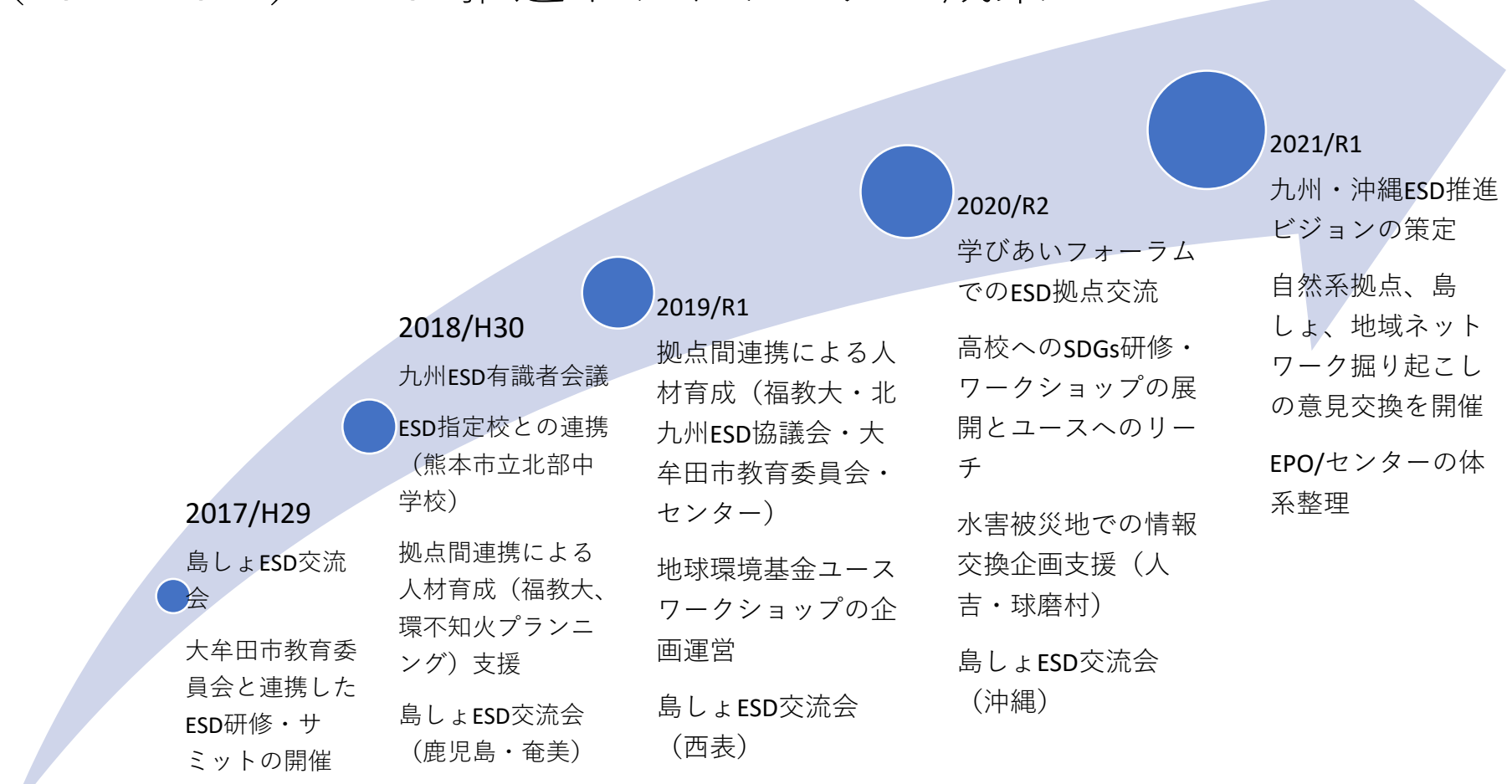
ネットワークを介した成果

- ・ESD/SDGsに関する相談窓口として認知されつつあり、企業、メディア、市民団体、教育関係者など多方面からの相談が増えている。
- ・メディアとの連携も増え、取材の他にラジオでの情報発信を行っている。
- ・ESD実施計画のパブコメ勉強会を通じ、学ぶだけでなく実際にパブコメを出すという行動から具体的な成果を残すことができている。
- ・ESDバーチャル大学参加者同士のつながりもでき、「持続可能な地域」を考える者同士の連携が始まっている。また、海外の講師・参加者も交えたグローバルな展開にもつながっている。

地方センター運営のポイント

- ・EPOとの連携、LS四国との連携により相乗効果を狙う。
- ・分野横断を意識し、より幅広いネットワークを構築する。
- ・顔の見える関係を作るため、キーパーソンとの対話を丁寧に行う。
- ・ESDを目に見える形にして世に送り出し、個々の意識の変化、行動変容から社会変容を促す。
- ・教育委員会との連携、信頼構築を大切にし、新居浜のような面的アプローチを取り入れる。

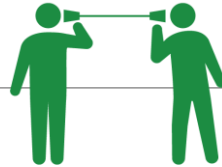
九州地方センター設置以降 (2017-2021) のESD推進ネットワークの成果



	2017	2018	2019	2020	2021	累計
相談件数	7	20	6	15	34	82
ウェブアクセス数	1,900	2,556	1,960	6,642	6,688	19,746
対話の場づくり数	29	22	45	27	35	158
主催・共催の対話の場	11	10	9	9	19	58
主催事業参加者数	902	850	824	255	231	3,062

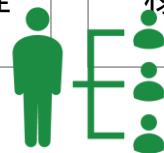
形成されたESDネットワークの特徴

- ・ 島しょ・自然系拠点のネットワーク
九州沖縄地域の特徴となる、広域に点在する各島しょでの地域の学び合いを支援し、実践者のESD視点獲得、また各地の自然系拠点のESD交流を形成。
- ・ 専門的ネットワークの構築
有識者や体験施設、地域ESD拠点をはじめとした、専門家/施設のネットワーク拡充を行い、地域循環共生圏の担い手育成支援を支援している。ビジターセンター意見交換、ESD有識者会議など。



ネットワークを介した成果

- ・ ネットワークに応じた情報交換・意見交換による学びあいをおして、多様な活動事例が共有され、各団体間の交流促進とともに、独自性の地域ぐるみのESD推進が行われた。
- ・ 地域ESD拠点をはじめとした関係主体への取材、積極的な情報発信により、ESDに関する研修などの具体的な相談に積極対応することでさらなるネットワークの拡大に波及している。
- ・ 学びあいプロジェクトの実践活動において、地域ESD拠点、島しょ地域の実践者が参加し、多様な主体が協働して推進するESDプラットフォーム推進の機運を醸成した。



ESD拠点との連携

- ・ 北九州ESD協議会 北九州ESDアワードへの協力、アクションプラン検討助言などRCEとしての取組へ多面的に助言・協力。
- ・ 大牟田市教育委員会
ユネスコスクールESD実践交流会を九州センターが共催し、多様な主体がESDについて意見交換を行う学びあいフォーラムを分科会として開催した。
- ・ 拠点交流企画の開催
拠点交流会を開催し、拠点からの情報提供登壇、また団体間の学び合いの場を創出した。



地方センター運営のポイント

- ・ 九州・沖縄ESD推進ビジョンの策定
設置以来培ったネットワークの活力をもとに、中期的な「地域ならではのESD」の実現を目的に、課題整理や支援ニーズの収集を行って、活動の方向性を位置づける九州・沖縄のESD推進ビジョンを今年度策定する。
- ・ 実践者の多様性
ビジョン策定にあわせて自然系拠点や島しょなどテーマに応じたネットワーク構築事業を実施し、地域におけるプレイヤーの増加、確保を行い、多様なESD実践者との継続的な協力関係を構築した。